授業科目名	法律基本演習	期別	後期	授業形態	演習
担当者名	佐野　　誠	単位数	2	開講年次	1

授業科目の概要

この授業は、重要な最高裁の判例をじっくりと読み込むことにより、基本的な法的思考力を醸成することを目的とする演習である。この演習では、各分野の重要判例を取り上げ、事実の概要の把握、判旨の理解、判決理由の分析、論点の整理を行う。このことにより、法律学を学んでいく上で必要不可欠な判例法理の正確な理解力、適切な事実分析能力、的確な問題解決能力等を育成する。

到達目標

⑴　個々の判例について、事実の概要を的確に把握した上で、判旨を正確に理解し、判決理由および反対意見等の分析や論点の整理などが適切にできる。
⑵　各判例について、自分なりの見解を述べることができる。

成績評価基準および方法

成績評価は、到達目標を基準として絶対評価で行う。
定期試験は実施せず、以下の要素を勘案して成績評価を行う。
授業の準備状況（30%）、授業における質疑応答の充実度（70%）

テキストおよび参考文献

テキストとして、伊藤眞『法律学への誘い〔第2版〕』（有斐閣、2006年、ISBN4-641-12510-4、2,500円＋税）を使用するので購入すること。
その他の文献については適宜紹介する。

履修上の留意点、準備学習等（事前・事後学習）

予習として、指定された判例をよく読み、その内容について自分なりの見解を考えておくこと（1時間程度を想定）。
復習として、授業において理解が不十分であった点を確認し、必要に応じて関連文献に当たること（1時間程度を想定）。

授業計画および内容等

第1回	契約の自由	最判平成29年12月6日民集71巻10号1817頁
第2回	営業の自由⑴	最判昭和47年11月22日刑集26巻9号586頁
第3回	営業の自由⑵	最判昭和50年4月30日民集29巻4号572頁
第4回	営業の自由⑶	最判平成12年3月21日判タ1028号138頁

第5回	良心の自由	最判昭和31年7月4日民集10巻7号785頁
第6回	法と宗教(1)	最判昭和52年7月13日民集31巻4号533頁
第7回	法と宗教(2)	最判平成5年2月16日民集47巻3号1687頁 最判平成9年4月2日民集51巻4号1673頁
第8回	法と団体の自律(1)	最判昭和35年10月19日民集14巻12号2633頁 最判昭和52年3月15日民集31巻2号234頁
第9回	法と団体の自律(2)	最判平成元年9月8日民集43巻8号889頁 最判平成14年2月22日判タ1087号97頁
第10回	婚姻関係と法(1)	最判昭和27年2月19日民集6巻2号110頁
第11回	婚姻関係と法(2)	最判昭和62年9月2日民集41巻6号1423頁
第12回	相続制度の 存在意義(1)	最決平成7年7月5日民集49巻7号1789頁
第13回	相続制度の 存在意義(2)	最決平成25年9月4日民集67巻6号1320頁
第14回	納税負担と受益	最判昭和60年3月27日民集39巻2号247頁
第15回	要件事実と 立証責任	最判平成13年4月20日判時1751号171頁 最判平成16年12月13日民集58巻9号2419頁 最判平成18年6月1日民集60巻5号188頁
関連URL		
備考欄		